

将来像2：働き方の再デザイン～いつでも、どこでも、誰とでも～

役場で業務にあたる職員等が、それぞれのライフスタイルとライフステージに応じて、自分らしくやりがいを持てる働き方を再デザインし、実現します。そのために、いつでも、どこでも、誰とでも働ける業務環境を構築します。このことにより、例えば、旅好きの職員が、世界各地を旅しながら業務にあたるということも想定します。

まず、「いつでも」という点については、非同期の働き方を仕組み化し、働く時間帯の柔軟性を担保します。具体的にはビジネスチャットツール等のクラウドツールの活用を原則とし、柔軟な働き方に対応した労務規則の整備、職員の意識変革を行います。

次に、「どこでも」という点については、テレワーク（在宅勤務、サテライトオフィス勤務、リモートワーク等）を希望する職員が選択できる仕組みを構築します。具体的には、業務を限界までインターネット系に寄せ、クラウドサービスで処理できるように、ゼロトラストの概念を取り入れたセキュリティ環境を構築します。

最後に、「誰とでも」という点については、価値を創造するために最適な人々と組織内外の境界線を超えて、プロジェクトベースでの共創を促進する仕組みを構築します。具体的には、複業人との共同プロジェクトの促進や役場内へのフリーアドレスの導入を行います。

なお、この将来像を実現するために重要な視点は、徹底的に職員本位で働き方をデザインすることであり、経費削減、業務効率化、生産性の向上といった役場本位の業務改革の視点は劣後します。したがって、費用がかかっても投資的に実施する取り組みが短期的には生まれます。ただし、中長期的な視点に立つならば、これらの将来像を実現することで、結果的に経費削減、業務効率化、生産性の向上も実現します。

また、職員等とは、単に正規雇用の職員のみを指すのではなく、あらゆる形態において磐梯町の業務に関わる人々を含みます。

以上より、子供との時間を確保しながら、介護をしながら、大学院に通学しながら等、あらゆるライフスタイル、ライフステージに合わせた、柔軟な働き方が実現します。また、この独特な働き方によって、自分らしく生きたいという優秀な人材が世界各地から磐梯町に関わってくれることも期待できます。

※ライフスタイル：個々の生活の送り方

※ライフステージ：個々の年齢により変化する生活段階

※テレワーク（リモートワーク）：職場に来なくてもどこからでも仕事ができる働き方

※サテライトオフィス：出先事務所

※ゼロトラスト：すべての通信を信頼しないことを前提に情報セキュリティ対策を行うという考え方

※フリーアドレス：オフィスの中で固定席を持たずに、ノートパソコンなどを活用して自分の好きな席で働くワークスタイル

2. 将来像2

働き方の再デザイン～いつでも、どこでも、誰とでも～

①戦略4：業務プロセスの再デザイン

業務プロセスを、職員等をユーザーとして捉え、「職員本位」に再デザインします。具体的には、従来の業務効率化に焦点をあてた「BPR(Business Process Re-engineering)」ではなく、業務プロセスのみならず、業務自体、システム(条例、制度、文化等を含む)、インフラ(ハードウェア、ソフトウェア等)、職員のリテラシー等も包含した総合的な視点から、「BPR(Business Process Re-designing)」に取り組みます。

具体的な戦術

- ・BPR(Business Process Re-designing)の方針を策定します。

②戦略5：可愛い職員には旅をさせよ

職員等が旅をしながらでも問題なく業務にあたるテレワーク環境を構築します。その心は、旅という非日常かつ非連続の状態においても問題なくテレワークできる状態にあるということは、情報システム・セキュリティ、就業規則、職場の理解等、テレワークにかかるあらゆる障壁を乗り越えているという究極の前提条件が整備されていることに他ならないということです。

そこで、いかなる状況下においてもテレワークを実現するために、ゼロトラスト・セキュリティモデルの実装やクラウドサービスの原則活用等を考慮した「[(仮称)デジタルアーキテクチャ設計・次世代情報インフラ更新計画]」を策定し、実装へ繋がります。また、旅する公務員実証実験を行うことで、実際に旅しながらテレワークをすることで生じる問題を顕在化させ、一つ一つ障壁を解消していきます。

具体的な戦術

- ・[(仮称)情報システム・インフラ更新計画]を策定します。
- ・旅する公務員実証実験を実施します。
- ・役場にフリーアドレスを導入します。

③戦略6：職員のリテラシー向上

テレワークを前提とした働き方を安全で実効性のあるものにするために、職員のデジタルリテラシーの向上を戦略的に行います。具体的には、情報セキュリティの知識習得やデジタル技術活用スキル向上を確実にする研修や資格取得支援を実施します。また、知見を広げるためのDX オンライン勉強会の開催や体験学習の機会を創出します。

具体的な戦術

- ・E-learningによる研修体制の構築と資格取得支援を実施します。
- ・DX オンライン勉強会を開催します。
- ・官民共創の取り組みによって、体験学習の機会を創出します。

※ BPR：業務のあり方を見直し効率化を図る作業